インターネットイニシアティブ（ＩＩＪ）「ＩＩＪモバイル」

高速モバイルデータ通信が営業力、経営力を強化する！

保条英司（ほうじょう・ひでし）
IIJ 専務取締役 営業本部長

モバイルデータ通信がADSL並みのスピードに

「現在、あらゆるビジネスシーンにＩＴシステム、そしてネットワークが浸透しています。例えば社員全員が携帯電話を持っていますし、社内連絡にもメールを使う。ＥＲＰやＳＦＡなども普及しています。企業のＩＴ活用が進むなかで、現場の最前線から経営部門まで、その業務プロセスや意思決定のあり方に何度も変革が訪れました。そしていま、再び大きな転換期が到来しています。モバイルデータ通信がＡＤＳＬに匹敵するほど高速化したのです。この新たな波に乗れるか否かが、二、三年後、企業の競争力の差になって現れる可能性も否定できないでしょう」

インターネットイニシアティブ（ＩＩＪ）専務取締役・保条英司氏が語るとおり、昨年、第三世代（３Ｇ）のモバイル通信技術が最速７・２Ｍｂｐｓ※を実現した。それを受けて誕生したのが、ビジネス専用の高速モバイルデータ通信サービス「ＩＩＪモバイル」である。

従来モバイルデータ通信を利用している企業の用途としては「営業担当者が外出先から社内の商品在庫をチェック」「フィールドサービスの業務報告」「客先でのプレゼンテーション」「幹部が社外でワークフローを承認」等々、非常に幅広い。「外勤社員とのコミュニケーションが活性化し、業務効率も上がった」「外出先から社のシステムを利用することで、顧客への提案力が向上した」といった評価の声もある。

しかし、従来のＰＨＳでは「速度が遅い」などの理由で費用対効果に不満を抱いたり、セキュリティ上の不安から、そもそもモバイルデータ通信の導入を躊躇する企業も多かったのだ。

「オフィス内あるいはオフィス間の固定通信なら容易にできることも、一歩外へ出たとたんに難しくなってしまうのが現実でした。したがって、最速７・２ＭｂｐｓのＩＩＪモバイルには必然的なニーズが存在していたと思います。高速通信によって、顧客の最も近いところにいる営業担当者たちが通信処理の時間を待たず、ストレスも感じず、データベースをリアルタイムに更新できる。逆に、必要なときに最新の情報を円滑に引き出すこともできる。社内のＩＴシステムを活用し、より戦略的な動きを生み出す好循環につながるのです」（保条氏）

営業企画などのバックオフィスにとっても同じことがいえる。現場からの情報を迅速に吸い上げ、例えばキャンペーン戦略の見直しを柔軟に行うことなども可能になるのだ。改善が半日でも早まれば、それだけチャンスロスを防ぐことができるわけである。

高速・セキュア・低価格ビジネスにＩＩＪモバイル

ＩＩＪモバイルは、ＮＴＴドコモおよびイー・モバイルのもつネットワークとデータ通信専用のカード型端末を活用している。ただし、単なる再販ではなく、法人向けに独自の高い付加価値を提供しているのが特徴だ。

同社マーケティング企画開発部課長・三木庸彰氏は次のように説明する。

「一般的なモバイル通信サービスは、個人／法人の区分けがなく、個人のヘビーユーザーも考慮した料金プランになっています。しかしＩＩＪモバイルは、ある程度利用シーンの限定が予想される法人専用サービス。そのため、価格をより低く設定できました。他方、懸念されがちなセキュリティ対策は強化しています」

※記事中、通信速度の表示はすべて下りのベストエフォート。

三木庸彰（みき・つねあき）
IIJ 営業本部 マーケティング企画開発部
課長

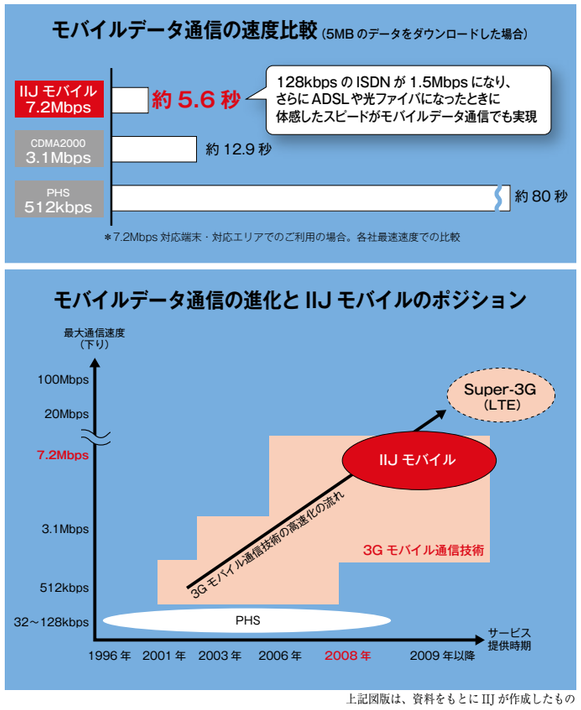
化しています」

ＩＩＪモバイルに用意されている料金プランの一つは、一回線あたり月に四六〇〇円の定額制。この価格で最速７・２Ｍｂｐｓの高速かつ快適なモバイルデータ通信が使い放題だ。北海道から九州まで主な人口密集地域が利用可能エリアとなっており、外出・出張先が都市部であれば、まず問題なく利用できるという。このほか全国どこでも７・２Ｍｂｐｓを享受できるプランなどもあり、自社の使用傾向に応じ、無駄のない最適なプランを選べる。

また、セキュリティ強化に必要な機能も独自のオプションとして用意されており、必要なものを選んでセキュリティ対策が可能。例えば、社員のモバイルＰＣからアクセスできる先を、オフィスのデータベースなどに限定するオプションがある。それ以外のウェブサイトなどへのアクセスは、ブロックしてしまう仕組みだ。

「シンクライアントを採用したいという企業があっても、従来のモバイル通信環境では、なかなかそれに応えることができませんでした。最大の問題は通信速度でしたが、そのほかアクセス制御などの面も不十分だったのです」（保条氏）

シンクライアントとは、機能を最小化したモバイルＰＣなどを指す。例えば、モバイルＰＣには記憶装置などを付けず、社外で必要なＰＣ作業は会社のサーバーにアクセスして行うこととする。これで情報漏えいのリスクも最小化されるのだ。



上記図版は、資料をもとに IIJ が作成したもの

社内とモバイルの連携が多様な可能性を生む

ＩＩＪモバイルは今年一月にサービスを開始した。既存サービスからの乗り換えももちろんだが、初めてモバイルデータ通信サービスを利用する企業からの反響も非常に大きいという。

「いろいろな分野の企業から引き合いをいただいています。保険会社、製薬会社、コンビニエンスストア本部などは、特に営業部門のニーズが大きいですね。またＩＴ関連企業が取引先に常駐するエンジニア用に導入するケースなどもあります」（三木氏）

さらに、ＩＩＪにとっても想定外だったユーザーとして、百貨店内のテナント店舗があるという。百貨店の建物がもつ制約のため、テナントと本社でデータ交換する通信ケーブルを敷設できずにいた。そこでモバイルデータ通信が助けとなったわけである。

社内ネットワークとモバイルネットワークを高速でシームレスにつなぐＩＩＪモバイル。活用しだいで多様な可能性をもつ、このサービスの今後について保条氏は次のように述べる。

「数年後に実用化する予定の次世代モバイル―Super-3G(LTE)―は、１００Ｍｂｐｓに達するといわれています。固定通信とモバイル通信の境界は今後いっそう薄れていくでしょう。ＩＩＪの使命は、そうした技術の進歩に多彩な付加価値を載せて、モバイル通信のより高度な『プラットフォーム』をワンストップで提供すること。当社には多くの企業ネットワーク構築で培ってきた豊富なノウハウがあります。これからはＩＩＪモバイルと、その他のソリューションの数々を連携させることで、単なる通信インフラを大きく超える、戦略的でセキュアな、それでいて廉価な企業向けモバイルネットワークを実現していきたいと思います」

●お問い合わせ先／株式会社インターネットイニシアティブ　☎03-5205-4979　URL　http://www.iijmobile.jp/